

2019年度「第25回新聞記事コンクール」(河北新報社主催)

「『N』乱射事件より平和な世界の実現に向けて」優秀賞受賞

佐々木 若葉

今年3月15日午後1時40分にクライストチャーチ銃乱射事件が起きた。留学先のホストマザーが事件現場から徒歩15分圏内に滞在していたこともあり不安を覚えた。事件直後に町は封鎖され、マザーが避難先のビルから解放されたのは7時間後の午後8時過ぎのことであった。マザーは当時のことを次のように振り返る。「多民族国家であるこの国で、このような事件が起きてしまったことがとても悲しい。容疑者の身勝手な思想によって、無実の人々が傷つけられたことは許されないことである。テロによって世界中のイスラム教徒に不安や恐怖を与えたと思う。」「事件当日はイスラム教の金曜礼拝の日だった。白人至上主義の過激思想をもった男によつて、モスクにいた50名の尊い命が奪われたのだ。犯人のSNS上には、反イスラム・移民排斥感情が綴られていた。

事件翌日、私が在籍するHamilton Girls・High Schoolでは追悼式が行われた。在籍する約1800名の生徒の背景には多様な国籍・宗教がある。イスラム教の生徒に限らず、多くの高校生が涙を流し、学校中が悲しみに包まれていた。会場近くには被害者や遺族に向けた、教員・生徒からのメッセージがあった。メッセージを見て思わず涙がこぼれた。人種や宗教を越えて、深く悲しみを分かち合うことに心が動かされた。私もペンを取り日本語と英語でメッセージを書いた。We are one. 私たちは一つ。

他民族国家であるNZに留学して7か月が経つが、生活している中で考えたことがある。たとえ人種・言語・宗教が違っても、私たち人間はみな平等であるということだ。日本で生活していると差別の存在認識がやや不足しがちだが、世界では差別による悲しい事件が起きている。来年、東京オリンピック・パラリンピックが開催される。日本政府は訪日外国人4000万人を目標としている。今私たちに求められていることは何か。平和の祭典を前に一人ひとりに考えてもらいたい。全ての人が平等で大切にされる世界の実現を祈っている。

高校卒業後、上智大学文学部  
新聞学科へ進学しました。



